

イラン展

— ペルセポリスの栄光と滅亡 —

イランは今、我々にとって近い国とはいえないであろう。独特な習慣、文化を強固に守るイスラムの国家でもあり、不幸なことにイラクとの戦争によって名を知られたのが、近年のイランではあるまいか。

しかしイランは、東西交流の拠点としての長い歴史をもち、強大な勢力を持った国家であった。その歴史は紀元前7000年までさかのぼり、さまざまな民族が支配、それぞれの文化が交わり合い、独特な花を開かせた。

イランとは「アーリア人の国」という意味を持ち、現代のイラン人のもととなったインド・ヨーロッパ系の人々は、紀元前2000年頃に、イラン高原に移住してきたとされる。中でもアケメネス朝の黄金時代はダレイオス1世の治世で、その代表的な建築物が、今もなお壮大な景観を残すペルセポリスである。

今回の展示は、シルク・ロードの拠点の一つとして有名なペルセポリスの遺跡を中心に、イランの風景、人々の姿を写した写真と、イランの工芸品である。

ペルセポリスは、世界遺産にも指定され、ヨルダンのペトラの遺跡、シリアのパルミラの遺跡とともに、世界でもっとも有名な遺跡の一つである。紀元前512年頃、アケメネス朝ペルシアのダレイオス1世が建築に着手、その子セルクセス1世によって完成されたとされる。総面積125,000m²の巨大都市で、その美しさは類のないものであったという。

都市に入るための大階段、彫刻に飾られたクセルクセス門、謁見の間のそびえる柱とレリーフ、百柱の間などが偉容を誇る。紀元前331年にアレクサンダー大王によって攻め滅ぼされたが、今も巨大遺跡を残している。

またイランはガラスや陶器、木製品などの工芸品も多く、そのデザインはイスラム文化のもと、独特な美しさを誇っている。それらの幾つかを通して、イランの魅力を味わいたいと思う。

